

現代住宅の平面構成に関する研究




第6報 嗜好と供給の実態

○正会員 本山 浩司 同 青木 正夫 同 竹下 輝和 同 友清 貴和 同 磯貝 道義
同 岡 俊江 同 宮崎 信行 同 河野 洋子 同 末広 香織 同 藤田 由美

[1] はじめに

本報では、嗜好の実態(以下、嗜好)と、実際に供給されている実態(以下、供給)を各地域ブロック別に比較し、その差異の有無について考察する。

[2] 分析方法

平面類型の成果をもとに、座敷の形態(続き間座敷と一つ間座敷)と、接客空間とだんらん空間の構成(接客空間とだんらん空間の重合及び分離)に着目して、平面を類型化するとモデルに分類できる。即ち、分離型  重合型  一つ間型  である。(図6-1) この3モデルの各地域ブロックでの供給と嗜好それぞれの構成比を比較することにより、嗜好と供給の差異を考察する。

[3] ブロック別の嗜好と供給の実態

各ブロック(図6-2)について嗜好と供給を見ると、非常に興味深い結果が見られる。まず供給プランの出現傾向で特徴の見られた地域以外は、供給は線的にプロットされる。これは各ブロックにおいて分離型の割合はほぼ同じであるが、重合型と一つ間型の構成比の違いによって各ブロックのプロットする点が異なるということである。

これに対して嗜好は集中的にプロットされる。つまり、北海道、関東、東北、東関東、近畿を除いた他のブロックは、ほぼ同じ嗜好を示している。また上述の異なる傾向を示す5ブロックについては、供給プランの出現傾向に特徴のみられたブロックとほぼ一致する。

ところが各ブロックともその嗜好の構成比と供給の構成比には差異が認められ、嗜好と異なるものが供給されている。(図6-3) 以下供給プランの出現傾向に特徴のみられた北海道、北陸、関東、近畿及び南九州について嗜好と供給を比較して考察を行なう。

1. 北海道

供給を見た場合、いわゆる居間中心型の住宅プラン

が多く、重合型が98.1%とほとんどを占めている。嗜好では確かにその重合型を好む割合が最も高く、他ブロックと比較しても最も高い。一つ間型の割合は、嗜好供給ともに低く、逆に続き間座敷の割合が高く、間取りを選ぶ時の注目点として続き間座敷をあげた割合が61.9%と高い値もそれを示している。ところが同じ続き間座敷でも、重合型ばかりでなく分離型を嗜好する割合も高いために嗜好の構成比と供給の構成比は大きく異なる。

2. 北陸

供給は分離型が最も多く、全国でも最も多い。ところが同じ続き間座敷でも重合型は少ないことから、だんらん室の分離している型の供給が多い。嗜好と比べると、プロットされている2点が最も近いのでかなり構成比が近いといえる。しかし嗜好も供給も重合型の割合が近いので、だんらん室の分離している型の割合は似ている。しかし、続き間座敷を嗜好する割合が高いために、嗜好と供給の構成比が異なる。この点から構成比は似ているとはいえ、やはり差異が見られる。

3. 関東

供給は一つ間型及び重合型で、分離型はほとんどない。嗜好についても同様な型の割合が高く、一つ間型については、注目点として一つ間座敷をあげた割合が17.6%と高いことから示される。ところで供給と比較すると、一つ間座敷、続き間座敷を嗜好する割合は供給と変わらない。差異がみられるのは同じ続き間座敷

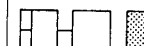


モデル名	平面類型モデル	座敷の形態	接客空間とだんらん空間の構成	モデルプラン
分離型		続き間座敷	分離	A B C
重合型		続き間座敷	重合	D E F
一つ間型		一つ間座敷	分離	G H

図6-1 座敷とだんらん空間の構成によるモデル図

でもだんらん室との重合だけでなく分離への嗜好があることであり、この点で嗜好と供給の構成比は異なる。

尚、供給プランの出現傾向に特徴のみらぬに東関東についても同様の傾向を示す。

4. 近畿

供給をみると、一つ間型が最も多く、重合型は最も少ない。つまりだんらん室の分離している型が多く供給されている。これに対して嗜好も一つ間型を好む割合が高く、間取りを選ぶ時の注目点として、一つ間座敷をあげている割合が18.7%と全国で一番高いこともそれを示す。逆に続き間座敷を注目点にあげた割合が5.5%と最も低い。供給と嗜好を比較した場合、重合型の割合、つまりだんらん室の分離している型の割合は変わらないが、一つ間座敷よりは続き間座敷を嗜好している割合が高く、この点で嗜好と供給は大きく異なる。

5. 南九州

供給については北陸に続いて分離型が多く、北海道・南東北に続いて一つ間型が少しい。このことは嗜好においても明確であり、注目点として一つ間座敷をあげ

た割合が7.5%と最も低く、続き間座敷をあげた割合が66.8%と高いことも示している。以上より嗜好も供給も続き間座敷の割合が高い点では共通であるが、だんらん室と分離した型での続き間座敷がより好まれている点で嗜好と供給の構成比に大きく差異がある。

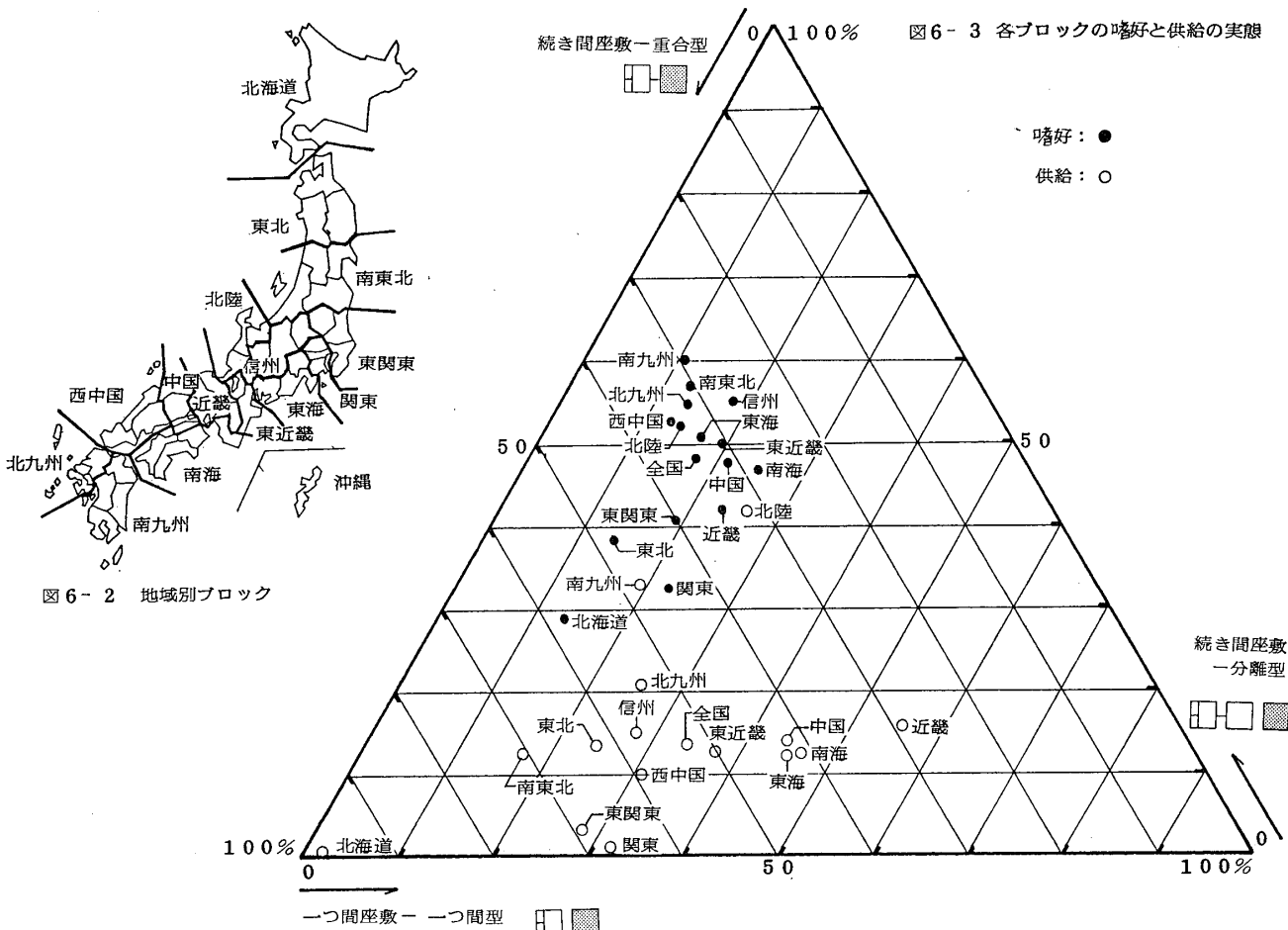
(4) 結び

以上より、供給はブロックによりかなり異なるが嗜好は全国的にかなり似た傾向が認められる。その中でも特徴あるブロックは、供給でも特徴のあるブロックと重なっている。ところが供給と嗜好を比較すると、全ブロックで構成比がかなり異なっており、供給の実態は嗜好を反映していないといえる。

アンケート調査に御協力くださいました全国子ども劇場および劇場連絡会の皆様に感謝の意を表します。

本研究は、財団法人新住宅普及会住宅建築研究所の研究助成を受けています。記して感謝の意を表します。

※「中流住宅の平面構成に関する研究(1)」青木正夫他
住宅建築研究所報 No.10 1984年。



*1 九大教授・工博 *2 同講師 *3 同助手・工博 *4 同大学院生 *5 ISA設計工房